

出題分析			
試験時間	80分	配点	200点
		大問数	5題
分量 (昨年比較)	[減少] 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化] 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>大問数は5題で変化はないが、昨年と比較して設問数が減少した。Ⅰでは昨年と同様の単語問題に加え、コロケーションを問う問題が出題された。他は、Ⅱで単語の意味を推測する力、Ⅲ・Ⅳで会話文の理解、Ⅴで広く英文読解力が問われ、総合的な英語力が試されている。Ⅳは簡単な設問から埋めて選択肢を減らしつつ、時間配分を考えて取り組みたい。Ⅴの論説文は論旨が把握しやすい内容であった。全体として、昨年より易化したといえる。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
Ⅰ	単語・コロケーション問題	5つの単語から抜けている共通のアルファベット2文字を選ぶ問題と、4つの語と適切につながる動詞を選ぶ問題が出題された。難度の高い語も登場するが、すべて知らなくても答えを導くことはできる。	標準
Ⅱ	語義推測問題 (変わり者のクラスメート)	英文中の下線部の語の定義を選ばせる問題。この形式は2012年度から出題が続いている。難単語が多いが、品詞と文脈を頼りに見当をつけて正解に至ることができる。	標準
Ⅲ	空所補充問題 (温泉リゾートでの会話)	[A] [B] 共に、会話文中の空所を埋める表現を選び、文脈に相応しい文を完成させる問題。状況設定がやや分かりにくいが入るべき表現が明白な空所から埋めていけば解くのは難しくない。	やや易
Ⅳ	対話文問題 (難民柔道家へのインタビュー)	対話文の質疑に対して適切な応答を選択する問題。応答の選択肢は長めなものが多く、丁寧に読む必要がある。質問のキーワードが明瞭なものから正答を絞るのがポイント。	標準
Ⅴ	長文読解問題 (幼年期の遊びの役割とその変化)	パラグラフごとの内容把握、論旨の選択問題、文整序問題、空所補充問題など。語句整序問題がなくなるなど設問数が昨年から減少した。空所が多いことでやや読みづらいが、必要な単語の知識が身につけていけば解くのは難しくない。	やや易

合格のための学習法

語彙を問う問題で確実に得点できるか、読解問題ではいかに正しく論旨を読み取れるかが重要である。単語を覚える際は、正確な綴りだけでなく、派生語や、その語が持つニュアンス、コロケーションも合わせて学習したい。また、対話文の読解演習を行う際には、口語表現などの学習を心掛けたい。長文演習をする際は、500～1000語ほどの英文を用いて段落ごとにその内容を要約しながら読み進める練習をしていくとよい。過去問演習をする際は、80分という試験時間を意識して適切な時間配分ができるようになるまで繰り返し練習していこう。